

第18回受賞事例集 (2016年)

施設等の部門



● 明るく温もりのある空間で健康寿命を延ばす ロコモ予防 貯筋デイ かがやき (富山市)

ロコモ予防 貯筋デイ かがやきは、障害のために移動機能が低下した状態(ロコモティブシンドローム 略称:ロコモ・和名:運動器症候群)になることを予防し、健康寿命を延ばすことを目的とした機能訓練型デイサービスです。施設は柱などに木材が多用され、室内には天窓があり、木のぬくもりの中に自然の光が差し込み、あたたかい雰囲気を感じられます。浴室は、大型ジェットバス付きの大浴場があり、そこからは園庭を眺めることもでき、機械浴ができる1人用の浴室もあります。

活動や取り組み部門



● 食品の「もったいない」から地域をつなぐ 特定非営利活動法人フードバンクとやま (射水市)

フードバンクとやまは、食べ物を大切にしたいという気持ちと、大量の食品が廃棄されている現状に、「もったいない」と強く思い、理事長の川口さんが、2009年に立ち上げた団体です。富山県内の企業や団体から、賞味期限の迫った食品や、大量に生産された野菜等の提供を受け、小規模の福祉施設や、生活困窮者を支援する団体に配分しています。今後の課題として、協力者・理解者を増やし、会の運営を継続的にを行い、1人でも多くの方に「食品ロス」について考えていただければ、と思っています。

● 高齢者サロン活動から地域を共に考える さん*さん まえざわ (黒部市)

これからの地域づくりやあり方を地域住民に考えてもらうことを目的に活動を開始しました。町内の公民館を活用し、歩いて通える高齢者サロンを中心に、その活動に地域の方が様々なかたちで参加し、その活動から「気づき」や「振り返り」を繰り返し、そこから共に学んでほしいと考えました。活動して日は浅いが、毎週1回の参加によりサロンに通う高齢者からは「生活の張り」や「心身の改善」が見て取れ、地域からの理解や協力も徐々に進んできています。今後は、公民館を中心に「よろず相談」や地域固有のニーズに合わせたボランティアセンターとしての発展が期待できます。

第19回受賞事例集 (2017年)

施設等の部門



● 南砺市の「幸せなまちづくり」の拠点 南砺市地域包括ケアセンター (南砺市)

南砺市地域包括ケアセンターは、地域包括ケアシステムを推進するため、福祉・医療・介護予防の拠点となり、大学サテライトも含めた健康づくり、介護人材育成、地域の支え合い等の「幸せなまちづくり」の拠点となることを期待された施設です。住宅のような雰囲気や、井波の街並みを意識し、地域に慣れ親しんだ方が訪れて落ち着く施設、地域と調和した施設となっています。このため1階の執務室では、高齢者の方や、車いす利用の方も気軽に訪れることができ、安心して相談することができます。



● 自宅に籠りがちな年配層の方に、サロンのように使ってほしい 富山信用金庫立山支店 (立山町)

富山信用金庫立山支店は、町の中心となる天満宮交差点に位置し、「自宅に籠りがちな年配層の方が、用事なくともこの場に来て、知人とおしゃべりできるサロンのように使ってほしい。」という思いを形にした、地域に根差した信用金庫です。地域に開放された庇下のテラス空間があり、立山町が整備した「たまり空間(ポケットパーク)」と一体となって、住民の憩いの場になっています。また、夜になると建物からもれる灯りが街を暖かく照らし、住民の方から、見通しも良くなり、安心して通れるようになったとの声が多くあります。

活動や取り組み部門



● 安心して食べに来てね! オタヤこども食堂 (高岡市)

近年、親が忙しく一緒に食卓を囲めない等、様々な原因が孤食の子どもたちを増やしています。オタヤこども食堂は、地球の宝物である子どもたちには、安心して楽しく食事ができる時間と、こころのゆとりをもってもらいたいという思いから、有志8名が集まり、県内で初めて、高岡市中心部にオープンしました。子どもの「孤食」への支援だけでなく、子どもたちが気軽に立ち寄れる場所、親同士の交流の場にもなっています。また、高校生がボランティアで手伝ってくれる光景も見られており、今後の活動の発展が期待できます。



● 地域の特性を活かした買い物支援 大町地区社会福祉協議会 (魚津市)

大町地区社会福祉協議会は、「市場形式」の買い物支援サービスを行っており、住民の方と一緒に、開店準備や売り子までを行い、アクティブシニア世代が役割をもった社会参加と住民主体のまちづくりとなっています。家から歩いて買い物に行ける市場ができたことにより、シルバーカーや杖を使用した方、バスに乗れない方や、1人で買い物に行けない方に喜ばれています。また、高齢者等の見守りや住民同士の交流促進、地域での支え合いや助け合いにもなっています。また、商店・企業としては、販路拡大と住民の生活課題に対してその地域の特性にあった対策を共に取り組む貢献活動を行っています。

やさしい福祉のまちづくり賞 受賞事例集

・ダイジェスト版・



2014-2017

この事業に関するお問い合わせは

 富山県民福祉推進会議

事務局 社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉・ボランティア振興課内
〒930-0094 富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館3階 TEL(076)432-2960 FAX(076)432-6124

 富山県民福祉推進会議

第16回受賞事例集 (2014年)

活動や取り組み部門

大賞



● 点訳活動により、視覚障がい者の情報取得をサポート アイサポートKirara(富山市)

平成15年活動開始。点訳によって視覚障がい者と聾眼者が同じ情報を共有したり視覚障がい者にとって情報の選択肢が増えるようサポートを行うことを目的としています。点訳はパソコンで行い、サビエ図書館(全国で点訳・音訳されたデータ等を保有し種々の情報を提供するネットワークシステム)に登録。それにより、全国の視覚障がい者個人・点字図書館等が各々に合った方法でデータを利用でき、点字使用者の利便性を高めています。また、プライベートな点訳依頼にも柔軟に対応して、市の広報やゴミ分別早見表、仕事や趣味・家事に関するものなど日常生活に協力しています。よりよい点訳を目指して技術を身につけ高めよう常に勉強中です。

賞



● 日頃のスポーツ活動を支援し知的障害者の社会参加を促す スペシャルオリンピックス日本・富山(富山市)

富山県内では平成17年に正式に発足し、知的障害のある人たちの継続的なスポーツの提供と併せて彼らの自立と社会参加を促すよう活動しています。競技会では、最も優れた記録を出した一人のアスリートを選ぶのではなく、参加した全てのアスリートが表彰台に上られるようにルールが工夫されています。アスリートは競技前に宣誓し、「たとえ勝たなくても頑張る勇気を与えて下さい」と結びます。そして富山が全国的に誇る活動として、競技会の前に必ず行うトーチラン(聖火リレー)があります。富山で当初、50人程度でスタートした活動が今では多くのボランティアに支えられ、会員数が800人を越えました。私たちは今後もトーチランで多くの市民に私たちを知っていただくことで、更に知的障害のある人たちの活動の輪が広がることを目指しています。

施設等の部門

賞



● 軒下で生まれる交流!地域にやさしい活動拠点をめざして 横山区公民館(入善町)

広場をL字型に囲う、ゆったりとした軒下と、その軒下に誰もが気軽に利用できる「ふれあいコーナー」を設けました。ゆったりとした軒下は、雨や雪の日でも快適な動線利用ができるとともに、集会場や和室がこの軒下を介して広場と接しており、祭りやイベントでは、内外を一体的に利用することができます。この内と外を緩やかにつなぐ軒下に設けた「ふれあいコーナー」は、移動販売の販売場、バス・タクシーの待合乗降場といったさまざまな用途や、子どもから高齢者までが井戸端のように集う、ふれあいの場として利用されています。さらに、スロープや多目的トイレなどのバリアフリーへの配慮と小規模な地区公民館でも安心して避難できる耐震性や断熱性に配慮したハード整備も同時に行い、地域にやさしい交流と活動の拠点をめざしています。

賞



● 高齢者も障がい者も一つ屋根の下で共に生きる喜びを 花みずき式番館(富山市)

平成21年4月、住宅型の有料老人ホームに、富山型デイサービスと障がい者のグループホームを併設した「花みずき式番館」。ゾーン分けをしない施設内では、職員がサポートしながら高齢者と障がい者の皆様が協力し合う光景があります。一緒に編み物をなさったり、障がい者の方が取り組まれた計算ドリルを、高齢者の方が採点し間違いを教える場面も。グループホームに設置したミニ文庫から本を選び、ソファに座って読書をされる高齢者の方もいらっしゃいます。一つ屋根の下で、様々な活動やイベントへの参加の機会を通して、寄り添いあひ共生できるよう工夫しています。また、バリアフリーのウッドデッキでは運動会などの行事のほか、お茶会やピクニックランチを開催し、式番館のご利用者様だけでなく近隣の地域の皆様をお招きし交流を図っています。

第17回受賞事例集 (2015年)

活動や取り組み部門

大賞



● 立野ヶ原台地(なんと市)で「エルハート城端農場」奮闘中! 福祉作業所 エルハート城端 立野原分場(南砺市)

2年の準備期間を経て、平成25年度から農業へ本格参入しました。農地の減築を図り、有機認証をめざして、根菜類(サツマイモ、里芋、玉ねぎ等)、葉物類(白菜、ホウレンソウ等)の栽培をしています。規格外の作物もお菓子等に加工するなど、消費者のニーズを聞きながら、顔の見える関係を大切に活動が心掛けています。利用者については、農場での作業を組み合わせることにより活躍できる範囲が広がりました。このことが利用者の大きな励みになっています。また、地域とのつながりを大切にし、地域住民の方に農業アドバイザーとして協力いただいたり、年1回、近隣の農家や協力者、利用者の家族を招待して、収穫祭を開催しています。そのほかにも、近隣住民を交え、収穫した野菜を使った料理教室を2ヶ月毎に開催するなど、地域住民との交流を積極的に行っています。現在は、「過疎の地域ににぎわいをもたらすお手伝いをする」、「耕作放棄地の保全管理」を信念に活動に励んでいます。

賞



● 障がい児者支援を通じて、 誰もが安心して暮らせる地域づくり 特定非営利活動法人くすみ(高岡市)

くすみは、障がいのある子どもたちの生活スキルや社会性を育むための「放課後等デイサービス」、家庭生活を支援する「居宅介護」、障がいのある子どもや大人の社会参加と自立を支援する「行動援護」などを行っています。毎日、子どもたちの笑顔と元気な声、そして外出支援や家事支援のヘルパーが入りし、とても賑やかです。希望に応じて、宿泊体験や相談カフェ、お母さんたちの勉強会などいろいろな企画も行っています。目的は「支援の必要な人が、経験と出会いの中で成長し、生きがいを持ち、一人の市民として尊敬を守られ、最後まで安心して暮らし続けられるまちづくり」。今後も、子どもたち一人ひとりの成長に寄り添いニーズに応えることで、誰もがその人らしく輝いて生きていける地域づくりを行っていきます!

賞



写真提供 北日本新聞社

● 人とひとがつながり、 生き活きたした、支え合う仏生寺 仏生寺地域づくり協議会(氷見市)

地域コミュニティの拠点であった旧仏生寺小学校が廃校となり、少子高齢化が憂慮される中、地域コミュニティを大切に、福祉・健康事業の充実や災害時の助け合いなどが重要になってくるとの思いから、平成25年7月に氷見市の第1号の「地域づくり協議会」として設立しました。これまで、高齢者の買物支援として「ハトムギワゴン」を毎月2回運行しているほか、生活に必要な情報を大きな字と写真でまとめた「生活便利帳」を作成し、支え合う福祉の充実に取り組んでいます。また、年齢や性別関係なく楽しめるスポーツ「カローリング」を通して住民の世代間交流や健康づくりに努めています。今後は、「仏生寺地域づくり計画」に基づき防災・減災活動に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを推進して「人とひとがつながり、生き活きたした、支え合う仏生寺」を目指します。

施設等の部門

賞



● ユニバーサルデザインとおもてなしの文化で 全ての人に喜んでもらえる店舗づくり 川金いろいろ茶屋 鮎の庄(砺波市)

「鮎の庄」は、庄川温泉郷の老舗旅館川金の別館料理茶屋です。この場所には以前から古民家を再生した鮎専門店がありましたが老朽化が著しく建て替えることになりました。建て替えにあたっては、人気のあった古民家風いろいろ茶屋のイメージを継承しながら、お年寄りも一緒に家族連れや、身体に障がいのある方など様々なお客さまに快適な環境で安心して楽しんでいただける店舗づくりをコンセプトにしました。駐車場から段差がなく客席までご案内できるフラットな動線や長時間座っても疲れない椅子テーブル席の充実、また車いすからの乗降が楽な小上がり席の工夫、そして多目的便所にはオストメイトも設置しました。このような建築的配慮をした上で、更に旅館業で培った質の高いサービスを提供し、どなたにも喜んでもらえる店舗づくりを目指しています。

賞



● 看護小規模多機能型居宅介護ゲートは、 高齢者を医療と介護の両面から支えます ゲート(富山市)

看護小規模多機能型居宅介護ゲートは、最後の時を迎えるまで自宅や地域で過ごしたい、という方を医療と介護の両面から支える、富山県で初めての事業所です。通い泊り・訪問看護と訪問介護を自由に組み合わせ、状態によっては萩野医院との連携で訪問診療や往診を行います。事業所は全室個室で、看取りの時などはご家族が付き添えるよう、居室とは別に和室もあります。また入浴はチェアインバスを採用、介護度の高い利用者も快適に入浴を楽しめるようになっています。リビングやダイニングは広々として気持ちよく、職員も見守りしやすくなっています。ゲートでは、四季折々の行事、春にはお花見、夏には流しそうめんや花火、秋には紅葉狩り、冬は節分など、様々な行事を利用者と職員が協力して行い、「ゆっくり・楽しく・和やかに」交流を深めています。